

令和7年度 広島県高等学校教育研究部会 書道部会 秋季研究大会 報告書

報告者

広島県立竹原高等学校 教諭 松崎 萌華

広島県立神辺高等学校 教諭 栗栖 花奈

令和7年12月17日(水) 広島県立府中東高等学校において、令和7年度広島県高等学校教育研究部会書道部会秋季研究大会が開催され、22名の教員が参加した。

当日は広島県立府中東高等学校の藤井直子先生による研究授業「書道Ⅰ」・漢字の書の創作の授業が展開された。授業を参観した後、研究協議を行いICT活用の効果や創作活動についてどのような取り組みができるか・どんな力を身に付けさせたいかについて意見交流が行われた。

本時の授業では楷書の古典である「牛橛造像記」を題材とし、その特徴を活かした創作活動を通して、文字の造形的な美しさや表現の幅を学ぶことを目的としていた。授業の展開は以下のとおりである。

(前時の復習)

「牛橛造像記」の特徴を改めて確認し、古典の理解を深める。

(示範動画の再確認)

特徴的な筆遣いや線の表現を動画で視覚的に確認し、理解を定着させる。

(イメージづくりと作例提示)

制作に入る前に、作例やイメージ資料を提示し、生徒の発想を促す。

(作品制作)

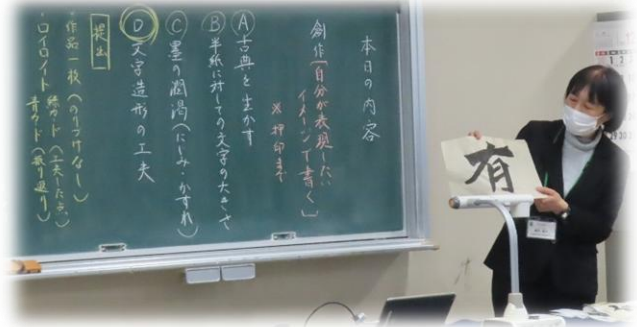
生徒自身の名前の一字を題材に、創作活動を行う。

(振り返り活動)

ロイロノートを活用し、制作過程や工夫点を入力・共有する。

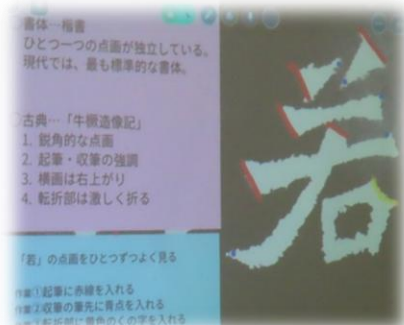
(鑑賞会と発表)

前時の作品と本時の作品を並べて比較し、表現の変化や工夫について発表・共有する。

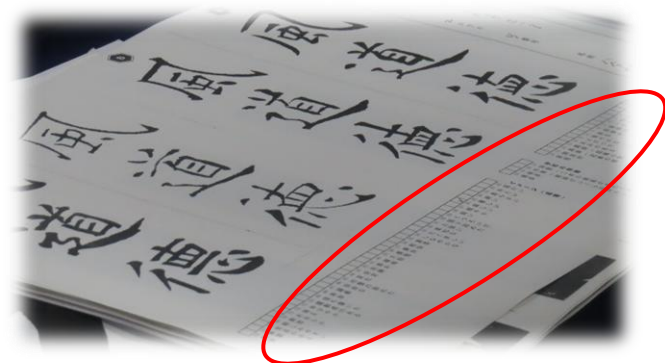


名前の一字という身近な題材を設定することで、どのように表現したいかというイメージを自然に持つことができ、創作への意欲が高まっていた。

また、ICTの効果的な活用も印象的であった。ロイロノートを用いて牛橛造像記の特徴的な横画や転折の動画を確認したり、起筆・収筆の部分の色分けした画像で視覚的に理解させたりするなどデジタル教材を活用したわかりやすい指導が行われていた。



さらに生徒の実態に応じた支援として、イメージを言語化することが難しい生徒のために「イメージの言葉一覧」をプリントに掲載する工夫もなされていた。これにより生徒は自分の感じた印象や表現したい雰囲気を言葉で整理しやすくなり、作品制作の方向性を明確にすることができていた。



授業中は、藤井先生による丁寧な個別指導が随所に見られた。生徒一人ひとりに寄り添いながら、作品の意図や表現方法について対話的に問いかける姿勢が印象的であった。生徒たちはその問いかけに応じて、自らの考えを言語化し、作品に反映させようとする姿が見られた。

また、鑑賞会では、生徒同士が互いの作品を見比べながら、工夫点や改善点を発表し合うことで、他者の表現から学ぶ姿勢が育まれていた。

今回の研究授業は、古典の学習と創作活動を効果的に結びつけた実践であった。ICTを活用した視覚的な理解支援、個々の生徒に応じた支援、そして対話的な指導によって、生徒の主体的な学びが促進されていた。

その後の研究協議では以下の2つの柱について意見交流が行われた。

- ① ICTを効果的に活用するために、どのような工夫ができるか
- ② 古典学習に基づいた創作活動について、どのような取り組みができるか。また、その活動を通してどのような力を育成したいか

①については、

- ・筆使いや書き方の確認をデジタル上で行うことで、指導時間を短縮できる。
- ・生徒が提出した作品の写真に対して教師が直接書き込みを行うことができ、場所を選ばず添削が可能となる。
- ・ロイロノートを活用し生徒が作品や書いている様子を動画で撮影・提出することで、筆使いや姿勢などの具体的な指導ができる。
- ・生徒同士で作品を共有し互いの工夫点を学び合う活動にもつなげられる。

という意見が出た。

メリットが多数ある中で、実技科目である以上アナログとデジタルの割合を目的に応じて考えていくことが重要であろうということになった。様々な用具・用材に触れさせることも学習するために必要な要素であるため、効果的な活用が求められる。

②については、

- ・古典の学習を通して得た知識や表現技法をもとに、新しい作品を生み出す力を育成する。
- ・学んだ内容を言語化させることでイメージを具体化し、表現力を高める。
- ・古典の知識・技能を活用し、それを創作活動に結びつけることが重要である。
- ・学びを基盤にした新たな表現を生み出すことで、創造的思考力や表現力の育成が期待される。
- ・ICT活用と創作活動を組み合わせた授業実践を試行し、効果を検証する。

以上のように既習内容を活用し、創作活動を行うことで新たなものを生み出す「創造力」や、自身の考え等を表現する「表現力」を身に付けさせていきたいという意見が出た。

これからの書道における授業については、リアルとデジタルをうまく組み合わせた ICT の効果的な活用を意識し、古典臨書を基礎としながら生徒の創造的な学習活動を取り入れていくことが必要であろう。引き続き、教材研究を行う中でより良い授業とは何かを考えていきたい。